

第 6 4 回学習会を、平成 2 8 年 1 月 1 5 日 (金) 19:00~20:00 福翔高校にて行いましたので、報告いたします。

第 6 4 回の内容

講師 重枝一郎先生

若い先生に愛情を注ぐための研修

- 1 うそつき自己紹介 (アイスブレイク)
- 2 楽しく仕事をする秘訣
- 3 教師の基本姿勢
- 4 福翔 WAY
- 5 キャリア教育の充実と学力向上
- 6 その他「哲学対話」
- 7 演習「黙ってコミュニケーション」



若い先生に愛情を注ぐための研修

1 うそつき自己紹介

私の 2 0 代の話ですが、うそがひとつだけあります。

毎日帰りの会で一日の反省を欠かさずさせていた / 学級通信を毎年 8 0 号出していた / 授業中も教科指導半分、生徒指導半分 / 初任から 2 2 年間連続して担任をした / 部活動はサッカー部 / 水泳部をもったこともある / 市民 1 0 0 人の前で初めて講演をした / 飲み会では必ず脱がされていた / 学校に来ない生徒を寝巻きのまま連れてきた / 家出生徒を見つけ出して一般道路で生徒指導をしていたら警察に捕まりそうになった

(クラスでのグループエンカウンターにも活用)

2 楽しく仕事をする秘訣

いつもちょっと無理をする / とときどき思い切り無理をする / とときどきすっかり脱力する / 必要なときに必要な人と出会っていると思う / 人のために生きる / 口癖は「自分で決めたことだから」 / 人を見る目が無いと思う / 「助けてもらう力」を身に付ける

(「助けてもらう力」について、クラスの間関係づくりの基盤の話でしておく)

「助けてもらう力」の根底には、なんとか生き延びよう、解決しようとする生命力がある。

最初は自力でしようとする。

自力で難しいと思ったら、次に助けてもらっても解決すべき問題か、自力でどこまでできるか、誰に助けてもらうかなどを判断する。

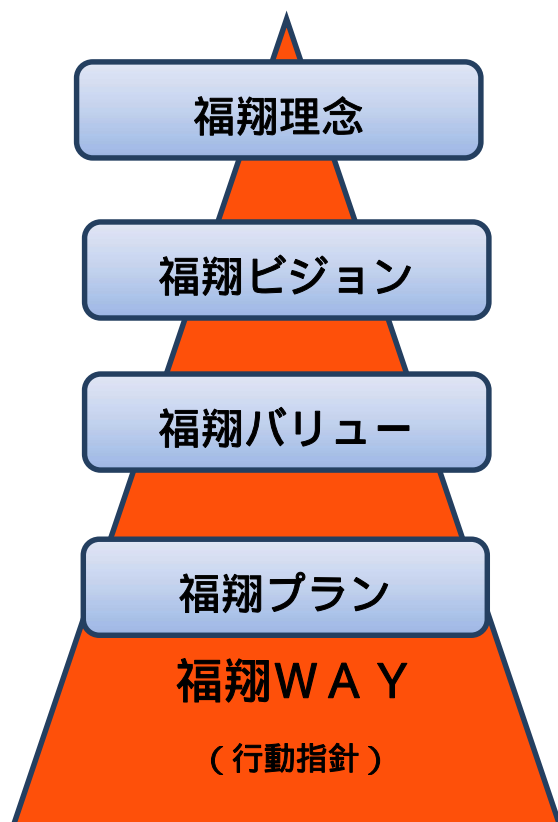
助けてもらえる関係を築いておくことも必要である。

「助けてもらう力」を身に付けておけば、学校を、人間を好きでいられる可能性は高まる。

3 教師の基本姿勢

勝負は一瞬，努力は無限／一人の大人のモデルとなれ／永遠の発展途上人たれ／人に興味をもつ
／行動がイノベーションを起こす

4 福翔 WAY



項目	定義
福翔理念	本来学校がもっている普遍的な意義。 学校としての理想。
福翔ビジョン	将来のあるべき姿を描いたもの。 市立高校として今後目指すべき姿。
福翔バリュー	理念・ビジョンを基本とした本校の核と なるDNAを言語化したもの。 福翔らしさ，福翔として大事にしている 価値観。
福翔プラン	10年間の戦略や5年間の施策の具体的な 業務計画。 (プロジェクト会議)
福翔ウェイ	福翔高校の教師としての行動指針。

5 キャリア教育の充実と学力向上

「4つの能力のフィルターを通して教育活動を捉える」

基礎的・汎用的能力

- ・人間関係形成・社会形成能力
- ・自己理解・自己管理能力
- ・課題対応能力
- ・キャリアプランニング能力

これまで提唱されてきた主要な能力論

「職業的発達にかかわる諸能力」「人間力」
「就職基礎能力」「社会人基礎力」「学士力」
を整理統合した

6 その他 「哲学対話」

「なぜ，勉強しなくてはならないのか？」「幸せとは何か？」正解はない。

対話を重ねると「相互尊重の姿勢」と「共通了解・納得解を見出そうとする」ことが意義。

特に，中学生年代は実は人生において一番哲学者になる時期。

7 演習 「黙ってコミュニケーション」

自分の考えをもって交流すると楽しい

「NASA ゲーム」「砂漠で SOS」「冬山で SOS」は、自分の意見をきちんと伝えて、人の意見も聞いて、合意形成するコンセンサス実習です。企業研修などでも行われています。このような演習を何のためにするのか。教師が意図をもって実践することが大切です。

先日、中学校 3 年生の学級活動で「NASA ゲーム」をしたところ、各クラスで白熱した話し合いが繰り広げられました。「NASA ゲーム」を今までにしたことのある担任は 1 人もいないという状況でしたが、実践してみると子どもたちの反応が予想以上によく、教師側が手応えを感じることができました。職員室では、各クラスの担任が、自分のクラスの子どもたちの反応について、楽しそうに話していました。

このような演習は、何となくするのではもったいないので、子どもたちにどんな力をつけたいのか、何の役に立つのかを考えて、教師が仕向けていくことが大切です。人の意見を尊重しながら自分の考えをもって交流する楽しさやよさを子どもたちが実感できるように、教師がファシリテーション役を担います。

「NASA ゲーム」

< 任務 >

あなたは、月面の陽のあたる側で母船とランデブー（宇宙船どうしが接近すること）する予定だった宇宙飛行士の一員である。しかし、機械が故障し、あなたの船は母船から約 300 km 離れた地点に不時着した。不時着のとき多くの機材が壊れ、隊員の生命は母船に到達することにかかっている。下記の 15 品目は着陸時に破損しないで残ったものであり、その中から、300 km を移動するのに必要なものを選び、あなたの任務は、母船に無事に到達するための重要度に応じて、7 品目選び、順位づけすることである。健闘を祈る。



- | | | |
|-----------------|-------------------|--------------------|
| ・ マッチの入った箱 | ・ 宇宙食 | ・ ナイロン製ロープ（20m） |
| ・ 落下傘の布（パラシュート） | ・ ソーラー発電の携帯用暖房器 | ・ 45 口径ピストル（2 丁） |
| ・ 粉ミルク（1 箱） | ・ 酸素ボンベ 45kg（2 本） | ・ 月からみた星座表 |
| ・ 自動的にふくらむ救命ボート | ・ 磁石コンパス | ・ 水（20 リットル） |
| ・ 信号用照明弾 | ・ 注射器入りの救急箱 | ・ ソーラー発電式 F M 送受信機 |

子どもの感想

- ・ 自分 1 人だけで考えた結果より、班全員で話し合って決めた結果の方がよかったので、やはりみんなで自分の意見を発表してお互いの意見を聞くことは、とても大切なことが改めてよくわかりました。
- ・ 今日の話し合いは、いつもより自分の意見を伝えることができ、みんなの意見を聞いたらみんな違う意見だったので、とてもおもしろく楽しい話し合いでした。友達の意見を聞いたら、自分の思いつかなかった意見や納得できるような意見をたくさん聞けました。
- ・ 自分 1 人で考えるよりも、いろんな人と意見を出し合って考える方が、より深まり答えに近づくことができると思いました。1 人で悩むより誰かに相談する方がいいのだと思いました。

教師は、子どもの学力を高めるために、説教を入れながら情熱的に講義型の授業をしています。そして、黙って子どもが話を聞いていれば伝わっていると錯覚しています。しかし、双方向ではなく一方向では、本当に伝わっているのかどうかはわかりません。教師が一番こだわるべきは、どのように伝えたら伝わるのか、伝え方を考えることだと思います。

それは、教師同士においても同じです。若い教師に先輩教師が何かを伝えるときにも、伝え方によって嫌みにならずにすみます。

「うそつき自己紹介」は、実際に、重枝先生が初任者に向けて実践した内容です。重枝先生のモットーは、『風土会では自分の実践したことしか話さない』です。だから、参加された先生方がすぐに見てみたいと思ったり、共感したりするのだと思います。理論ありきではなく、まず、実践ありきで、そこから教育の本質や普遍性を見つめて理論にしていくのが「風土会」の在り方です。

それでは読者のみなさまは、下記の内容で、どれが「うそ」だと思いますか？下記の10の内容のうち、9つは本当の話です。うそがひとつだけ混じっています。9つの本当については、自己開示していることになります。

私（重枝）の20代の話ですが、うそがひとつだけあります。

毎日帰りの会で一日の反省を欠かさずさせていた／学級通信を毎年80号出していた／授業中も教科指導半分、生徒指導半分／初任から22年間連続して担任をした／部活動はサッカー部／水泳部をもったこともある／市民100人の前で初めて講演をした／飲み会では必ず脱がされていた／学校に来ない生徒を寝巻きのまま連れてきた／家出生徒を見つけ出して一般道路で生徒指導をしていたら警察に捕まりそうになった

「初任から22年間連続担任をした」 → 本当！

若い先生に、担任をしたときの様々なエピソードを話せます。重枝先生は、生徒指導主事や学年主任をしながら、担任をしていました。

「学級通信80号」 → 本当！

学級通信は、手書きですばやくタイミングよく出していました。言いたいことは書きためておいて、後は、生徒の言葉や感想などを載せていました。学級通信だけではなく、学年通信や部活通信も出していました。

「学校に来ない生徒を・・・」「家出生徒を・・・」 → 本当！

重枝先生に、直接、話を聞いてみましょう。おもしろいですよ。

正解（うそ）は、「毎日帰りの会で・・・」でした。

重枝先生は、蛇のようなミーティング(重枝流の例え)に効果があるのか疑問に思っていたそうです。人それぞれに考え方があるので、教師側に筋を通した考えがあればOKというスタンスです。

この他、重枝先生の20代の話について、興味がある内容については質問してみてください。このような方法だと、聞き手が「聞きたい話」になります。話し手が「話したい話」よりも、聞き手が「聞きたい話」に仕向ける方が、伝わります。

これは、学級や友達同士でも実践できます。クラスや班でゲームのようにして実践すると、他者理解になります。相手のことについて知らないことは絶対にあります。お互いのことを知ると、仲良くなります。自己開示の内容については、10個が多ければ5個にするなど工夫して、臨機応変で実践してみてください。

実感があるのでは？・・・「楽しく仕事をする秘訣」

いつもちょっと無理をする／ときどき思い切り無理をする／ときどきすっかり脱力する

学校の先生なら、日常的に「無理をしている」という実感があるのではないのでしょうか。また、学校の先生には、たくさんの出会いがあります。出会いの中には、自分が苦手な人やタイプの違う人との出会いもあります。そんな時こそ、未熟な自分に向き合い、器が大きくなるチャンスかもしれません。その時にはわからなくても、時間が経過して実感することもあります。

必要なときに必要な人と出会っていると思う

重枝先生にも様々な出会いがあります。今回の風土会では、現福岡市教育センター所長である相良先生との出会いについて、若い頃のエピソードが語られました。興味のある方は、風土会に参加してお尋ねください。

口癖は「自分で決めたことだから」

組織の中では、「ホウレンソウ：報・連・相」が大事だと言われます。しかし、「学年で決めたから」「○○先生にそうするように言われたから」ではなくて、自分で決める覚悟をもつことも、人として必要だと思えます。それが、生き方であり、子どもたちは教師の人間性を見抜いています。

「助けてもらう力」を身に付ける

自分がきつい思いをしている時に助けてもらおうと、その先生を好きになります。そして、今度は自分が何かしたいと思います。人間関係は、常に「お互いさま」です。助けてもらうことは弱々しいというよりも、コミュニケーションスキルであると、子どもたちに教えます。

変なプライドをもっていて自分ではすごいと思っても、本当は尊敬されていないことがあります。それよりも、助けてもらう力を身に付けていれば、人を好きでいられます。それは、子ども同士だけではなく、先生同士の関係でも同じです。

「互いに理解し協働しよう」を伝えるために、全体像を示して説得力をもたせる

何かを目指して協働するためには、指針が必要です。それを○○WAYのように全体像として示すと、説得力をもたせることができます。

目指すものを実現するためには、これをしておかななくてはならないという行動があります。例えば、サッカーの上達には、ひざの柔軟性が大切です。それを理解したうえでボールタッチの練習をするというように、なぜ、そうするのかということを常に考えていると、自分の行動に意義があると感じられるようになります。

発達段階に応じて「自ら学ぶ意欲」を育む

自ら学ぶ意欲

- 好奇心(興味・関心)「学ぶことはおもしろい(内発的)」
 - ・ 幼児期前期(2～4歳) 拡散的好奇心(安全確保)
 - ・ 幼児期後期(4～6歳) 特殊的好奇心(刺激・共感)
- 成長欲求「過去の自分より成長したい」
- 優越欲求「友だちに勝ちたい」
 - ・ 小学生
- 自己実現「将来の目標を定め、そのために学ぶ」
 - ・ 自己理解を促す
 - ・ 目標の実現のために必要なことは、たとえ嫌なことでも自発的に学べるようになる
 - ・ 中高生

幼児期の「好奇心」を充足させると、自ら学ぶ意欲の中核は形成される

赤ちゃんは、何でもさわってみたいという好奇心がいっぱいです。それを、「拡散的好奇心」と言います。その頃に大人がすることは、安全面に気をつけることです。

3歳頃からは個性が出てきます。例えば、昆虫が好きであったら、図鑑を与えるなど刺激を与え、共感することで、自ら学ぶ意欲が高まります。このように、その子どもの好奇心や意欲を充足させると、中核が形成されていきます。

小学生になると、過去の自分より成長したいという「成長欲求」や、友だちに勝ちたいという「優越欲求」が生まれます。

小学校高学年から中学生になると、自己実現への欲求が生まれます。目標をもつことが意欲につながり、目標をつくることが大切になっていきます。キャリア教育にもつながるのですが、目標をつくる場面をていねいに行くと、自ら学ぶ意欲が高まります。そうすると、嫌なことでもしようとする忍耐力も育まれます。

「キャリア教育よりも学力向上をさせることが重要ではないですか」「生徒指導が忙しくてキャリア教育を実施する余裕がありません」という教師の発言を聞くことがあります。しかし、キャリア教育の充実と学力向上は、対立するものではありません。学習意欲の低下は、学習習慣が確立しないことにつながります。学ぶ意欲の発達段階から考えると、キャリア教育を実践することによって、学習意欲を向上させることができれば、学力向上につながります。

また、生徒指導についても、問題行動を起こした生徒が、よりよい行動を選択したり、自分の行動に責任をもつように指導したりすることは、自己指導能力を育成しているといえます。これは、キャリア教育における、「基礎的・汎用的能力」の育成と同じです。

「基礎的・汎用的能力」とは、『人間関係形成・社会形成能力』『自己理解・自己管理能力』『課題対応能力』『キャリアプランニング能力』に整理されています。今までに主要な能力論として提唱されているのは、「職業的発達にかかわる諸能力」「人間力」「就職基礎能力」「社会人基礎力」「学士力」などがあり、それらを整理統合したのが、「基礎的・汎用的能力」(『人間関係形成・社会形成能力』『自己理解・自己管理能力』『課題対応能力』『キャリアプランニング能力』)です。

教師は日々の教育活動について、子どもたちにどんな能力を身に付けさせるために行っているのかを自覚しておくことが大切です。それがわかっていれば、すべての教育活動が関連付き、効果も高まるでしょう。教育の本質を見極める教師になるためには、実践に裏付けられた理論をもつことです。そのために、風土会での学びがあるのだと思います。

哲学対話

自分自身を振り返ってみても、中学生から高校生の頃には、哲学的なことを考えていたように思います。人生において最も哲学者になる時期は、青年期なのかもしれません。

道徳が教科化されますが、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子どもが自分自身の問題と捉え向き合う「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図るものであると明言されています。道徳の時間でも学級活動の時間でも、ねらいによって設定できるので、子どもたちが自分で考え、対話したり議論したりする授業をデザインしてみませんか。

「いじめはいけません」と教師が説教する一方向的な授業ではなく、「なぜ、人は人をいじめるのか」というテーマで議論をした方が、きれいごとではなく本音で話し考える機会になるでしょう。子どもたちの心に迫る授業をするためには、まず、子どもたちの本音を知る必要があります。

日本の子どもは自尊心が低いと言われますが、大人が一方向的にほめても子どもの自尊心は高まりません。子どもが本当に見てほしいこと、ほめてほしいことをほめないと、子どもの自尊心は高まらないのです。「うそつき自己紹介」でも「哲学対話」でも「議論する道徳」でも何でもいいので、子どもを知ることができる場を設定しましょう。子どもを観察しているだけでは見えないことを知る機会になります。

演習「黙ってコミュニケーション」

4人組で行うエクササイズです。詳しい内容は、風土会から生まれた本「Teacher's Teacher 2」のP.145を参照してください。

「課題は、同じ大きさの正方形を4つ作ること」

「ルールは、しゃべらない。ほしがない。ただ相手に黙って渡すだけ」という説明で、ゲーム開始です。

このエクササイズは、自分の思ったようにならないのでストレスがかかります。

自分の自己中心性に気付くことができます。

人それぞれにスピード感が違うので、ルールを破って指示を出したり、人のピースにさわったりする人もいます。特に、リーダー性のある人にとっては、ストレスが大きくなります。

30分くらい悩むと、「相手の立場に立つ」「思いやりをもつ」「人はそれぞれ違う」などに気づく域に達してきます。4人とも正方形ができなくては終われないのですが、自分ができてしまうと、何もしなくなる人もいます。そうすると、永遠に完成しません。

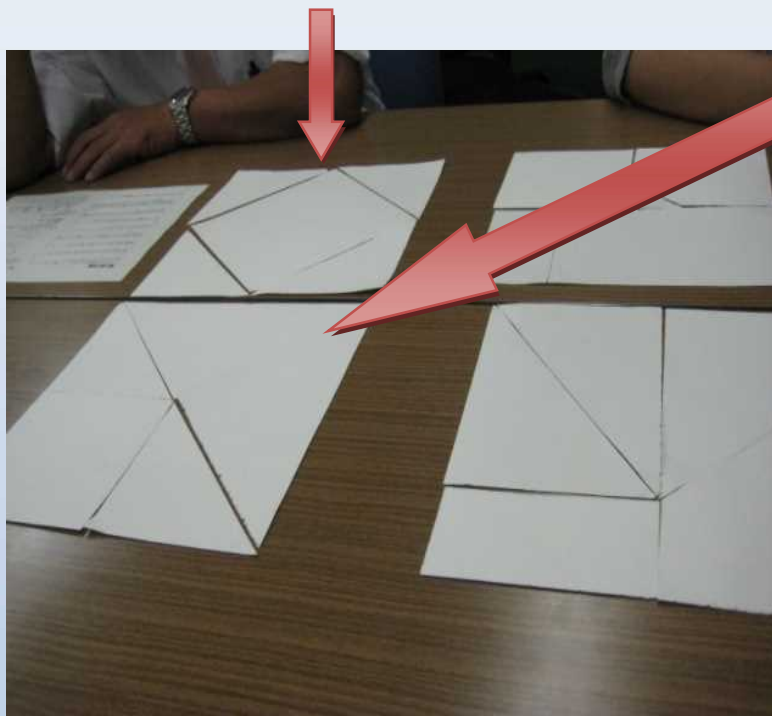
ファシリテーター役の教師は、子どもの様子を見ながら、タイミングよく声をかけます。

「確かに正方形かもしれないけど、その大きさではない」

「自分だけができていても、チーム全員が完成しないと終われないよ」

「作業は机の真ん中で、同じ長さの辺になるようにして正方形を作ってごらん」など、子どものモチベーションが下がってきたと思ったら、アドバイスをします。また、教師は答えを覚えて、ヒントを出します。

状況を見て、簡単な正方形は完成させます。 難しく悩むのは、この組み合わせです。



最初はよい感じではじまりますが、自分だけでは解決できません。子どもの様子を見ながら「自分の心の変化を気にしておくように」と伝えます。「自己中」という突っ込みが入れやすいエクササイズです。

「相手の立場に立つ」「思いやりをもつ」「人はそれぞれ違う」と頭ではわかっているけど、実際には難しいと実感させるようにします。「相手のことを思っていたか」というねらいに迫るようにしないと、エクササイズをした甲斐がありません。このエクササイズは、福祉体験につなげることもできます。子どもたちが自分の心の変化を振り返るように、教師が何を話せるのか。それが大切です。ねらいに迫るような話ができるように、エクササイズを活かせるようにしましょう。よい実践ができれば、風土会でお知らせください。

今回のキーワード

- 必要なときに必要な人と出会っていると思う
- 「助けてもらう力」の根底は、解決しようとする生命力
- 口癖は「自分で決めたことだから」
- 行動がイノベーションを起こす
- 哲学対話

♪ 学習会に参加された先生方の感想 ♪ （参加人数 22名）

- ・「必要なときに必要な人と会う」というお話が印象に残りました。生徒や保護者、先生方との様々な出会いが、自分にとって都合のよいものでも悪いものでも、全てひっくるめて自分に必要だと考えることができれば、辛いことも楽しく、楽しいことはもっと楽しくやれるような気がしました。重枝先生の様々なエピソードも面白く聞かせていただきました。「黙ってコミュニケーション」の演習も、普段の指導とからめながら実践したいと思います。
 - ・担任をしているクラスが、ディベートが好きな生徒が多いので、「哲学対話」をしてみたいと思いました。すごい考えが生まれそうな気がします。
「黙ってコミュニケーション」では、ついつい人のものに手を出したり、声を出したりしてしまいました。自分だけが完成していないと、すごく申し訳ない気持ちになって焦ってしまい、よけいにわからなくなってしまいました。中学生でも、いろいろな感情が芽生えるだろうと思いました。
 - ・「楽しく仕事をする秘訣」は、今の自分にとっても響く内容でした。私はまだ若手で、先輩の先生方からきつい言葉をいただいていた。その言葉について、よく考えてみると、自分だけでは気づけないような指摘ばかりでした。どんな言葉であっても、それはその時の自分に必要なことで、さらには救いの手であると思うと自然に前向きになれたし、行事を終えた後には達成感を感じました。めまぐるしく過ぎていく毎日の中でいかに成長できるか考えていましたが、重枝先生のお話を聞いて、改めて気づきがありました。この秘訣を大切に実践していけば、仕事も楽しく自分も前に進んでいけそうです。ありがとうございました。
 - ・風土会で演習をすると、自分の心の振り返りになり、子どもたちをいつも、自分のペース、自分の見方で評価したり活動させたりしているということに気づくことができました。
今日は特に、重枝先生の講話が心に残りました。「うそつき自己紹介」で話された重枝先生のお話興味深かったですし、「楽しく仕事をする秘訣」の中に出てきた「自分で決めたことだから」は、今の自分に98%くらい当てはまりました。報・連・相を大切にしなければと思う自分の裏に「責任をもちきれない」と思う自分がいることに気づきました。
 - ・参加したいとずっと思いながらも参加できておらず、初めての参加でした。重枝先生の言われていた「助けてもらう力」を身に付けると人が好きになって学校も好きになれるという話を、自分のクラスの生徒や今後担任として受けもつ生徒にしたいと思いました。プライドが邪魔をしてなかなか人に頼れない子どもや逆に自己肯定感が低く、自分は何の役にも立てないと思う子どもも多いので、少しでも子どもたちの意識を変えられたらと思います。重枝先生のお話は、すぐ実践できる内容ばかりで、とても勉強になりました。
 - ・「うそつき自己紹介」や「哲学対話」を通して、「子どもたちを観察しているだけでは見えないところが見えてくる」という言葉が印象に残りました。子どものことをわかっているつもりになってはいけなと改めて思いました。「黙ってコミュニケーション」では、自分が数学の教師だということもあり、はりきってしまいましたが、最後に自分の前のパーツが完成しない状態になり、協調する気持ちに欠けていたことに気づき、申し訳なくなりました。
- （先生方の感想を読む度に、様々な気づきや学びがあります。受け取る先生方がいるから、伝えるモチベーションがわきます。人と関わるよさを実感できるからこそ、子どもたちにも伝えることができます。人は、必要なときに必要な人と出会っています。風土会での一期一会が、先生方の前に進む力になれば嬉しいです）